

第七十三回句会 俳句

【高点句】

- ☆ 露むいて母は娘の名を忘れ 〔郁代〕  
☆ 傘傾げすれ違う道額の花 〔安津子〕  
☆ 父の日の父に碁敵ゐて元氣 〔明美〕  
☆ 人見知りして苺にはそつと手を 〔眞澄〕  
☆ 紫陽花の我も我もと垣根越え 〔安津子〕  
☆ 木漏れ日の斑を遊ばせて青葉風 〔眞澄〕

【各自一句】

- ・ 追従も世渡りの才七変化 〔明美〕  
・ 紫陽花や峨峨たる山の色変化 〔莫院〕  
・ 五月晴重機の音のフル稼働 〔一馬〕  
・ 荒寺のけふ青々と額の花 〔伸子〕  
・ 寛容の白き紫陽花はなことば 〔隆司〕  
・ 紫陽花や洋館もよし寺もよし 〔撫子〕  
・ 「ゴツホのヒマワリ」花屋のおやじ手の無骨 〔千恵〕  
・ 濃紫陽花シャツは色褪せるまま 〔安津子〕  
・ 介護バスゆつくり四葩擦り行く 〔眞澄〕  
・ 夏草の刈られし土手に香の残る 〔緑〕  
・ 七変化守る緑の葉の豊か 〔青蛙〕  
・ 師の文字の残りし楽譜額の花 〔郁代〕

\* 以上、37句（3句ずつ12名、1句が1名）より、選句は15名により4句ずつ

\* 高点句は、高得点の句より3句（今回は第1位が同点で2句、第3位が同点で4句）

\* 各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載／1名は掲載辞退）